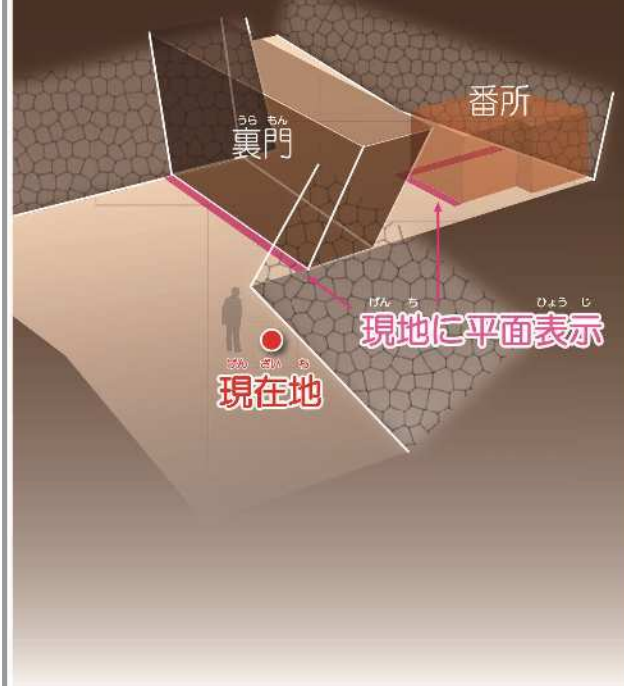


裏門・番所

Postern・Guardhouse



□ 特別史跡本居宣長旧宅
□ 史跡松坂城跡

松阪市教育委員会 令和6年(2024)11月設置

松坂城の搦手筋(裏口)の構造

城郭内の登城路は、何度も屈曲させ、門と組み合わせることで防御する力を高めています。このような構造をもった空間を枡形と呼びます。

松坂城の搦手筋の登城路は、複数の枡形が連続する形で造られており、強固なものとなっています(図1)。

松坂城の裏門

裏門は、1600年代中頃の記録から、本来は本瓦葺二階建の櫓門であったと考えられます(図2)。

櫓門は、城郭の防御力を高めるために、城門の上に櫓を設けた門の名称です。櫓部分には、窓や狭間が作られ、外部の監視や、攻撃をすることができました。

右の写真(図3)は、明治5年(1872)に撮影された裏門で、当初の姿から萱葺屋根に変わっています。江戸時代の大風で二階部分が破損したため、萱葺平屋建に改修されたという記録が残っています。

番所

右図(図4)は、明治初期に作成されたもので、裏門の背後に、城を警備する人が待機するための番所が建てられていたことがわかります。令和5年(2023)に行った発掘調査でも番所の痕跡である礎石(柱を支える石)が見つかっています(図5)。

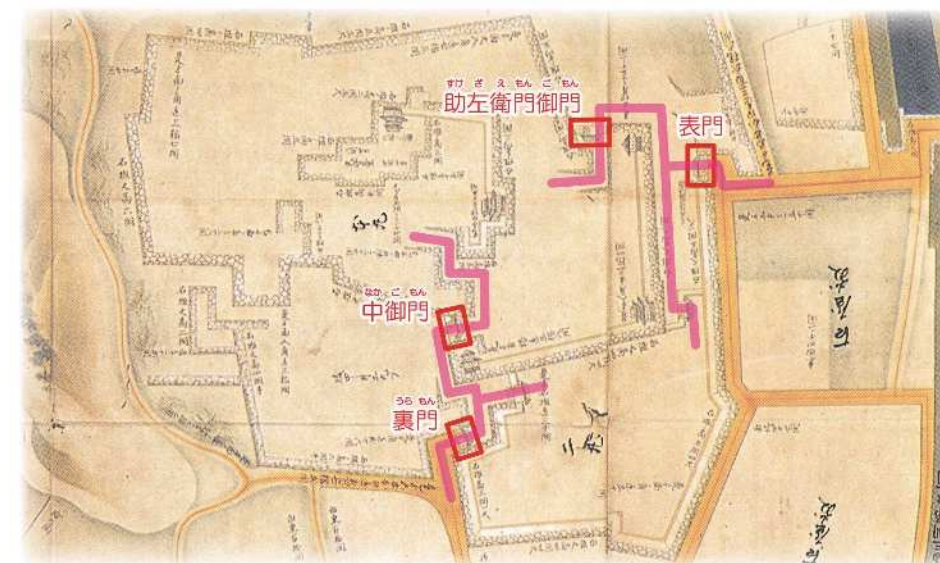


図1:「伊勢国松坂古城之図」国立公文書館蔵



図2: 櫓門の例
(松坂城跡表門)
東京国立博物館蔵

図3: 明治5年の裏門 東京国立博物館蔵

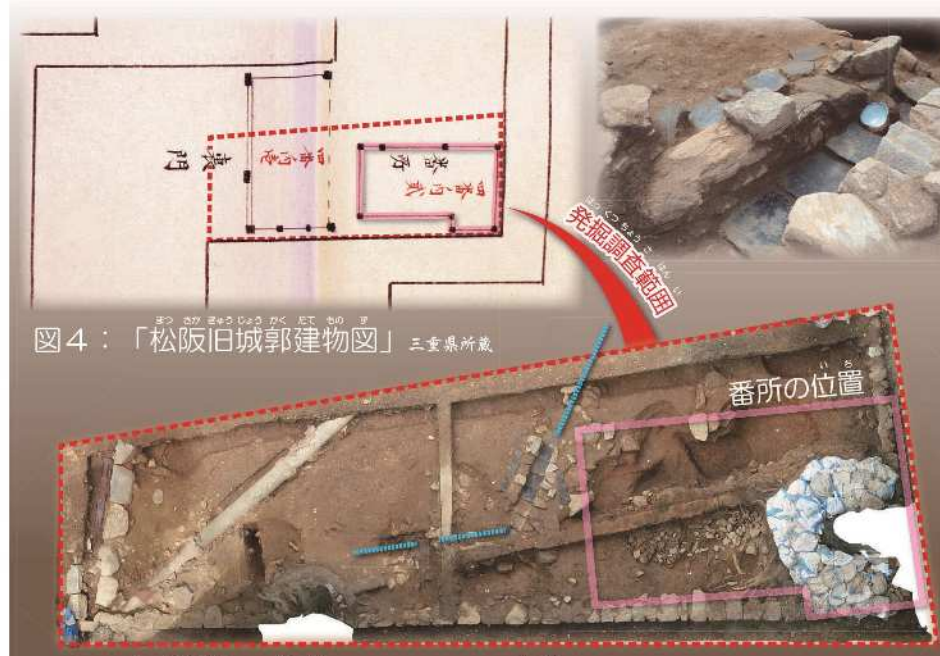


図4:「松坂旧城郭建物図」三重県所蔵

図5: 発掘調査で確認された番所の痕跡